

2024年2月9日

第62回関西財界セミナー 分科会議長・モデレーター報告

第1分科会 「マルチステークホルダー経営に支えられた 新しい資本主義の実現に向けて」

第1セッション論点

- ・資本主義をめぐる世界的な潮流と、日本における経営哲学の評価、そして企業が果たしていくべき役割とは何か

第2セッション論点

- ・マルチステークホルダー経営を後押しする企業関連諸制度のあり方とは何か

第3セッション論点

- ・企業と投資家等が建設的な対話を行うために双方に何が求められているのか

議論の総括

- ・多様な資本主義がある中、わが国に合致する資本主義の形を議論、再評価できた。企業は様々なステークホルダーにおける「社会の公器」としての責任を果たすためにも公平でバランスのとれた価値の分配を行うべき。
- ・投資家も、企業経営には様々な不確実性があることを踏まえ、中長期的な視点や、社会価値等も含めた広い企業価値の視点を持って企業を評価すべき。
- ・今後、経済界として、企業の好事例の紹介や、マルチステークホルダーの理念を反映すべくCGコードの改定、経営者の評価の仕組みの検証、議決行使助言会社のあり方、会社法の見直しに関する意見を表明していく。

第2分科会 「GXを関西経済の成長につなげる ～未来の視点から、確実にやってくる変革のチャンスを捉える～」

第1セッション論点

- ・GXに関する世界的な潮流・現状
- ・ビジネスの現場でのGXに関する課題・危機意識

第2セッション論点

- ・ビジネスチャンス創出を加速させる視点・方策
- ・業種・業界の枠を超えた連携によるビジネスの拡大

第3セッション論点

- ・GXを地域活性化の視点で進めるポイント
- ・関西が果たすべき役割、可能性

議論の総括

- ・GX取組を企業価値向上に繋げるための評価の仕組み／政府支援が必要
- ・競争優位性確立に向けたグローバルなルール・規格づくりを主導すべき
- ・GXをグローバルに捉え、関西地域で産官学連携して、関西の技術をアジアを中心とした世界の脱炭素に活用し、新たなビジネスチャンスへ
- ・関西に集積する産業・技術基盤を活かし、CO2削減に貢献する「GXをサポートする関西」として世の中へ発信
- ・2025大阪・関西万博で、関西のGX取組を世界に発信し、関西を世界から多くの人・企業が集まるGX先進地域へ

第3分科会 「DXで築く関西」

第1セッション論点

- ・「企業のDX」の意義・目的とは何か。どのように取り組むべきか。

第2セッション論点

- ・社会課題の解決と地域魅力の向上に向け、「社会のDX」にどう取り組むべきか。

第3セッション論点

- ・“DX先進地域”として、2030年に何を目指し、今からどう取り組むべきか。

議論の総括

- ・デジタルは手段(How)であり、大事なはその目的(What)となるXの方である。技術者でなく経営幹部がリーダーシップをとって推進する。
- ・専門職でなく、自社を熟知し課題解決の機会を発見できる人材を育成する。
- ・自社だけでなく、中小企業を含めたサプライチェーン全体でのDXと、産業の定義を変えるような産業横断のDX推進に、他地域に先んじて取り組む。
- ・関西経済の発展のため、企業のDXだけでなく社会のDXを重視。社会課題の解決と地域魅力の向上に、行政だけでなく、市民、経済界も主体として取り組む。
- ・論理だけに依存しない関西流の“先駆ける意思決定”により、2030年までに企業変革・産業変革・社会変革において“先駆ける関西”を実現する。
- ・万博を跳躍台として活用し、変革により輝く「関西ブランド」を世界に強く発信して、ビジネスの場としても生活の場としても国内外から選ばれる存在となる。

第4分科会 「『人への投資』の目指すところ」

第1セッション論点

- ・なぜ今「人への投資」が求められているのか
- ・企業が進めるべき「人への投資」とは何か

第2セッション論点

- ・「人への投資」を企業の成長につなげるには
- ・経営視点で考える人材戦略や人事施策のあり方
- ・「人への投資」に関するステークホルダーとの対話のあり方

第3セッション論点

- ・今後の人材獲得の方向性
- ・働き手のキャリア形成とその支援のあり方
- ・労働力不足とどう向き合うか
- ・社会全体で進める「人への投資」

議論の総括

- ・創造的タスクを担う人材が不足し、働く人の成長意欲も減退。企業は、「人への投資」の量的拡充にとどまらず、経営層一体となって人的資本に向き合い、投資の魅力化を図る。社会全体でキャリア教育やセーフティネットなどの対応も重要。
- ・魅力的な「人への投資」とは、人の心に火をつけるもの。多様な“個”に寄り添う対話により、理念と将来の方向性を共有、様々な成長の機会を提供し、自律的な能力開発を促す。企業と働く人が互いに共振・共鳴しあって、共に成長していく。
- ・「人への投資」の“見える化”がポイント。それぞれの企業が魅力的な投資を実践、これを内外の様々なステークホルダーに発信する。互いに切磋琢磨することで、競争原理が働き、労働市場全体の魅力が高まり、世界中の働く人を惹きつける。

第1セッション 「少子化の本質的な課題と影響」

- 多岐に亘る課題を孕む少子化に起死回生のホームランはなく、「歯止めを掛ける戦略」と「適応する戦略」の二軸で、地道に取り組む必要あり。

第2セッション 「子どもを産み育てたくなる社会とは」

- 「共働き・共育て」の浸透には、企業が産む側や支える側の精神論に委ねず、仕組みを整備し、トップダウンかつ当事者視点でアプローチする事が重要。

第3セッション 「明日から経済界・企業人、何をする？何をやめる？」

- 人手不足と国内マーケットの需要不足が起きるなか、企業は、よりイノベティブに、かつ戦略的縮小や海外市場進出等により過去の成功体験から脱却して、大きく変わることが不可欠。

議論の総括

- 若者が夢を持って結婚・出産を望めるよう、人口減少社会の中での「生産性向上→企業収益向上→賃上げ→経済成長」という好循環を作り出す必要があり、経済界・企業人の役割は重要。
- 企業には、投資家等の多様なステークホルダーの理解が必要。日本最大の社会課題たる少子化対応が、長期的に日本企業に有益である事を企業人・経済界が強く発信し、企業経営の一丁目一番地としてビルトインしていくべき。

第6分科会 「『いのち輝く未来社会』のために私たちは何を？」

第1セッション論点

- ・私たちが目指すべき「いのち輝く未来社会」とは？

第2セッション論点

- ・「いのち輝く未来社会」を支える新しい企業の姿とは？

第3セッション論点

- ・「いのち輝く未来社会」に向け、企業・経済人は何をすべきか？

議論の総括

- ・ 目指すべき「いのち輝く未来社会」は、「対話」による繋がりから「希望」が見出される社会→「多様性」・「共感」・「信頼」・「共助」
- ・ 「社会」との間に境目がない企業→感受性を磨き、一元的価値観から脱却
- ・ 倫理・哲学のある経営→人と自然は資本、「弱さ」への共感
- ・ 私たちは、あらゆる主体との対話を重ねていく